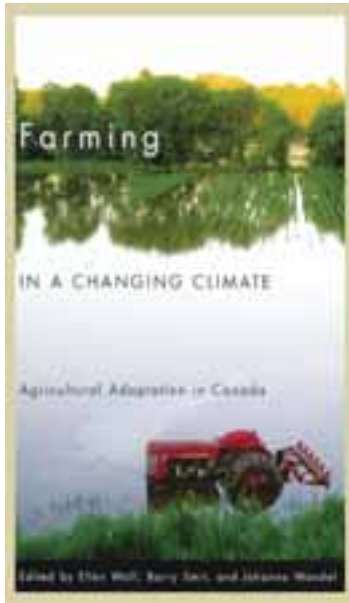


Wall, E., B. Smit, and J. Wandel (eds.)

Farming in a Changing Climate: Agricultural Adaptation in Canada

食料領域 研究員 澤内 大輔



私たちが研究対象としている農林水産業は、他の産業部門に比べ気候の影響を受けやすいと言えるでしょう。低温や高温、日照不足、水不足、台風などの極端な気象現象が農業生産に甚大な被害をもたらしたなどのニュースは、しばしば見受けられます。一方で、地球温暖化のように比較的長期間の気候変化が農業生産に影響を及ぼすとの研究成果も発表されています(温暖化影響総合予測プロジェクトチーム^①など)。長期的な気候の変化は、農業に対してマイナスの影響もプラスの影響ももたらし、その影響の方向や程度は地域によって大きく異なるだろうというのが、多くの研究が共通して指摘している点ではないでしょうか。

とはいえ、人間の活動に必須となる食糧生産に深くかわる農林水産分野では、今後予想される平均気温の上昇や降水量の変化、極端な気象現象の増加などに、うまく対応していく必要があるでしょう。すなわち、いかに気候や気象の変化がもたらすマイナスの影響を抑え、プラスの影響を生かすかという「気象・気候変化への適応策」が重要になります。適応策には、種まき・田植えや収穫などの時期をずらすなど生産者レベルで対応できるものから、品種改良や灌漑対策、保険や共済の整備など各種機関や国・自治体などの協力が必要なものまで、幅広いレベルでの対策が含まれます。

今回紹介する *Farming in a Changing Climate: Agricultural Adaptation in Canada* には、カナダの農業分野での適応策をテーマとした研究が整理され収められています。本書の導入部分では、農業分野での適応策に関する研究の分析フレームワークが整理されます。続いて提示される研究内容は、いずれも農業分野での適応策に関連したのですが、長期的な気候の変化がカナダの農業生産へ及ぼす影響の予測から、現在、すでに実施されている干ばつ対策(灌漑)の評価まで、幅広いものとなっています。

最後に、研究成果のまとめとインプリケーションが提示されます。インプリケーションは、特に農業分野での適応策の重要性、適応策に関する研究促進や政策実施の重要性といった点に焦点が当てられています。気候の変化は農業に対して、高温障害や水不足な

どの直接的な影響だけでなく、生産に必要な資材の価格変化など間接的な影響をもたらすため、幅広い視点からの弾力的な適応策が必要であると改めて認識させられました。

本書は、2005年に開かれたワークショップをもとに作成されています。ワークショップには、研究者に加え現役の生産者なども参加したようです。本書を総括する章では、研究者の立場からのコメントだけでなく、生産者からの発言も整理され収録されている点が、非常に興味深く感じられました。

本書は、カナダの農業を主な研究対象としていますが、国の違いこそあれ、本書に示されたインプリケーションは、日本の農業に対しても適用できるところが多いものと考えています。

【引用文献】
 ①温暖化影響総合予測プロジェクトチーム(2009)『地球温暖化「日本への影響」…長期的な気候安定化レベルと影響リスク評価』(環境省 地球環境研究総合推進費 戦略的研究開発プロジェクト「S-4 温暖化の危険な水準及び温室効果ガス安定化レベル検討のための温暖化影響の総合的評価に関する研究」第2回報告書)。

【レビューした本の書誌情報】
 Wall, E., B. Smit, and J. Wandel (eds.) (2007) *Farming in a Changing Climate: Agricultural Adaptation in Canada*. Vancouver: UBC Press.